

当院における SARS-Cov-2 感染症に対する運用報告

◎畑田 祐也¹⁾、縄田 勇貴¹⁾、新田 誠¹⁾
福岡県済生会 二日市病院¹⁾

【はじめに】新型コロナウイルス(SARS-Cov-2)感染症の確定診断には、咽頭あるいは鼻腔のぬぐい液や唾液を試料とし、SARS-Cov-2 のウイルス RNA を RT-PCR 法などの遺伝子検査により直接証明する方法や抗原定量検査、抗原検査のイムノクロマト法がある。しかし、遺伝子検査の実施には、十分な環境整備と熟練した人材の確保が必要であること、さらに遺伝子検査自体が迅速性に欠けるなどの問題がある。したがって、今後の検査体制を構築する上では、より簡便で迅速かつ高い処理能力を持った検査方法が有用であると考え。当院の SARS-Cov-2 感染の可能性がある患者への対応を検討した結果と運用事例を報告する。

【方法】メーカーから提供された陽性一致率及び、感度・特異性のデータを参考に試薬性能を検討した。これらの結果をもとに、SARS-Cov-2 感染の可能性がある患者に対する検査体制マニュアルを作成し運用を開始した。①運用開始初期:抗体検査にビトロス SARS-Cov-2Total 抗体試薬(オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス

社)、抗原定性検査にイムノエース®SARS-Cov-2(タウンズ社)、外注 PCR 検査(シー・アール・シー(CRC)社)を用いた。②PCR 検査機器導入後:PCR 検査に全自動遺伝子解析装置 Smart Gene®(ミズホメディター社)、エリートインジューニアス(プレジジョン・システム・サイエンス社)を用いた。③抗原定量検査導入後(現在の運用方法):抗原定量検査にアキュラシード SARS-Cov-2 抗原試薬(富士フイルム和光純薬社)を用いた。

【考察】SARS-Cov-2 感染の可能性がある患者に対して、全例遺伝子検査を実施出来るのが理想ではあるが、検査件数の増加に伴い、試薬の供給や迅速性の観点から厳しい状態であった。抗原定量検査を組み合わせたことで、検査件数の増加に対応出来たと考える。また、濃厚接触者の職員に対し、出勤時抗原定量検査を実施したことで、院内の感染予防、人員確保の両面で貢献出来たと考える。

恩賜財団 社会福祉法人 済生会二日市病院
検査部 畑田 祐也 092-923-1551 内線 (2223)